

地域に根ざした施設を目指す

触れ合って

絆の杜

支えあって

第34号 平成24年6月29日

発行所

社会福祉法人 光道園

鯖江 福井県鯖江市和田町9
TEL (0778) 62 - 1234 (代)
FAX (0778) 62 - 0890

朝日 福井県丹生郡越前町朝日22
TEL (0778) 34 - 1220 (代)
FAX (0778) 34 - 2099



5月1日に班活動がありました。泰澄の杜(越前町)で、バーベキューをして楽しみました。お腹いっぱい食べて幸せいっぱいな1コマです。【ライトホープセンター・援護二課】

主な内容

園長 創立五十五周年の光道園 …… P2

光道園介護技術研修スタート!! …… P3

光が丘所長杯ゲートボール大会 …… P4

花より団子♪* …… P5

京都一泊旅行は、楽しかった …… P6

光道園ロード …… P7

「化石の他に何を見てきたの?」「ほ～ね～」 …… P8

のぞみ工房 陶華星 …… P9

パン工房 フ・クレール …… P9

情報開示 …… P10,11

新任職員の紹介 …… P12

ふれあい交流 in 光道園 …… P13

笑顔がいっぱい …… P14



創立五十五周年の光道園

園長 荒木博文

今年、光道園は創立五十五周年を迎えます。創設

者であります故中道益平初代園長を知る職員も少なく、創設者の遺志を受け継ぐ私たちに課せられた責任は重く、今光道園があることの意義を職員一人ひとりが自覚し、その先へと繋げていかなければなりません。昨年からは、光道園らしさを大事にしようという基本方針をたて、今年も継続しています。

「働く光道園」「学ぶ光道園」「一人ひとりを大事にする（育む）光道園」です。これは、利用者の方たちのみならず職員においても同様です。この目標を達成するために、具体的な課題として、「地域移行への取り組み」「職員の専門性、資質向上への取り組み」「経営改善への取り組み」があげられます。

地域移行の取り組みについては、今年度、丹南地区及び光道園障害者支援施設の地域移行の拠点として、一体型共同生活介護事業所（ケアホーム）および障害福祉サービス事業所（通所作業所）を越前町朝日に建設し、平成二十五年四月開所を目指します。出来る限り在宅で、住み慣れた地域で生活するための住まいと働く場の提供を目指します。八月着工予定で工事前準備に入りました。

職員の育成に関しましては、研修体制を新たに構築しスタートを切りました。新任職員のためのブリーダー制度や介護力向上基礎研修、中級研修、上級研修、職員一人ひとりに対し研修計画、目標を明

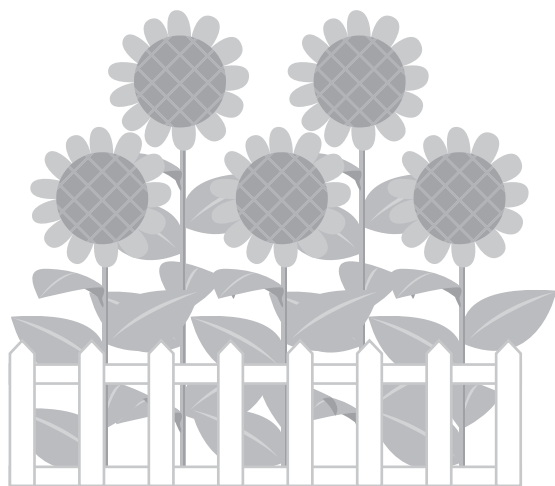
確にし一年間取り組みこととするなど、各職種、職責に応じた研修体制をとることになりました。また、光道園の文化を継承するべく日常業務の中でのOJTも重要と考え、伝えることの大事さを育成の一番と思ひ実践してまいります。

経営改善の取り組みは、エコを意識したコスト削減に、利用者の方たちの協力を得まして、昨年度約一千万円の削減ができました。消費税増税の論議もされている中、さらに継続してまいります。経営的には、二十三年度は増収とコスト削減で長年の懸案でありました、障がい部門では、浴室の増設や機械浴機器の入れ替えなど実施できましたし、老人部門ではデイサービスの増築を計画、二十四年度に実施のめどが立ち安定した経営ができたと思います。今後とも利用者の方たちが安心して生活出来る環境、職員が働きたい、生きがいを感して働ける環境を創ってまいります。

今、光道園にとって、一つの気がかりは両事業所とも、敦賀原子力発電所から三十キロ圏内にあるということとです。福島のような原発災害が起きないとは限りません。非常時の水、食料等三日分の備蓄はありますが、ヨウ素剤、万が一の移動手段など課題は大きいと思っています。また、震災など大規模災害が起こってしまった場合を想定したBCP（事業継続計画）を立てる必要があると思ひますし、嶺南

と嶺北、福井県と近隣県などとの相互協体制の構築や、所属団体を中心とした災害基金の積み立てなど、一法人の問題としてではなく、社会福祉にかかわるすべての団体の連携が不可欠ではないかと考えます。災害を忘れることなくその時に備えておきたいと考えます。

冒頭に述べましたように、今年には創立五十五周年にあたります。大々的なセレモニーは予定していませんが、七月十二日に創立四十五周年記念事業「ミックバラース物語 井の中の蛙 天を知る」の脚本、演出、主演をされたタレントの八波一起氏講演会を開催いたします。また、鯖江、朝日両事業所の創立記念模擬店や光が丘夏祭りも趣向を凝らした内容としたいと考えております。ぜひご参加ください。これからも利用者、ご家族の皆さまが満足していただける支援を目指します。よろしくご支援のほどお願いいたします。



光道園介護技術研修スタート!!

生活機能支援室 理学療法士 村岡 英明

平成二十四年四月、光道園独自の研修カリキュラムの一つである、「光道園介護技術研修（以下 研修）」が多くの職員のご理解・ご協力に支えられ、スタートいたしました。今回、研修構想に至った背景、研修実施時の様子を紹介させていただきます。

私が老人施設に勤務していた頃、車椅子を駆動されて食堂まで向かう方がおられました。体は傾き、お尻が車椅子からずり落ちそうな感じでした。落ちないようにお尻を整えますが、また体は傾き、落ちそうな感じになっています。その都度整えつつ、仕方ないのかな、何かいい方法ないのかな・・・と漠然と思っていました。一方で、自分の実施している介護・介助ってどうなのだろう？

介護・介助に自信がない・・・といった漠然とした不安がありました。理学療法を学ぶ機会に恵まれ、あの時の不安に対する一つの解決策に気がつきました。それは、なぜ、そうなのか？といった気づきであり、気づきを解決していく How To を生活に取り入れ、生活を整えていくということとでした。普段の支援の中にリハビリテーションのエクセレンスを取り込んだ介護・介助、生活支援に無限の可能性を感じた瞬間でもありました。それらの要素を盛り込んだ研修は、光道園の職員（契約職員を含む直接支援にあ



口腔ケアの講義の様子

たる職員約三百名）が対象として開催されます。研修過程として、初級・中級・上級課程が設けられ、研修内容は摂食・嚥下・口腔ケア（食に関する分野）や身体介助（身辺動作介助の分野）に関することとです。

今回、四月と五月

で五〇名程度の職員を対象に開催された時の様子をご紹介したいと思います。お互いにとって初めてであり、伝達者のリハビリスタッフ、受講された職員の方々とともにかなり緊張していました。気心知れた同じ職員同士、その緊張は笑い声や和やかな雰囲気へと変わっていききました。午前中は摂食嚥下・口腔ケアについての研修で、受講された方より、「普段自分は気をつけて歯磨きをしているけど、利用者の口腔ケアに細かい心配りをしているか」といった気がきました・・・自分がされているかと思いつつケアしていきたくて思いました!!」といった感想がありました。午後の身体介助に関する研修では、「頭ではわかっていても、自分でやってみると全部介助しがちになっているので、びっくりした!! 重心の動きを意識し、安全で利用者さんの力を引き出しながら行うことが大切だと感じた。」といった感想がありました。一部ではありますが、第一回、第二回に参加された方々の声（アンケート五〇部の中から抜粋）をご紹介します。



車椅子への移乗介助、さて・・・

ます。

◎自分の介助方法を見直す機会になり、正しいケアの方法を学ぶことができました!! 実践的で明日よりすぐ実行できることばかりだった。

◎自分の介助のポイントを見直したり、介助する側・される側の気持ちになり向上につながると思いました!!

◎口腔ケア・摂食嚥下について、全体的にとらえることができ、良かったです!!

◎いつも自分がしている介助について、とても考えさせられた。反省点も多く、改めて、相手のことを考えた介助をしようという心で誓った日でした。これからも利用者の方々のためにできることを日々考えながら接していきたいと思えます。

研修時の和やかな雰囲気にも包まれつつ、アンケートを見つけていく中で、気持ちが温かくなりました。それは、利用者一人一人の心身の状況に応じた介護・介助を実践できるスキルを学ぶことに終始せず、利用者の方々の思い、我々職員のその方々への思いといった双方の思いが、その方らしい豊かな生活へと繋がっていく可能性を感じたからです。その方と共にあゆみ、自分らしい人生をしっかりとあゆむことを支援していくスタンスを大切にしていっていき振り返りの場、また、職員個々が互いに高め合う機会になっていく雰囲気を感じました。

人が様々な生命活動を営む中、生命活動を担う為の心身機能を取り巻く環境に支障が生じた時、自分らしい生活を営むことが難しくなってしまう時もあると思います。介護・介助に求められるのは、自分らしく生きるための支援だと思っています。

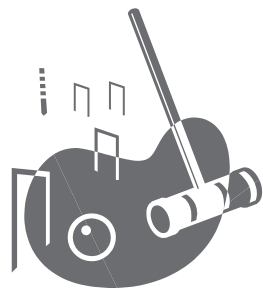


重心移動を促しながらの移動介助

光が丘所長杯ゲートボール大会

第一・第二光が丘ハウス（高齢福祉一課）

広江ひとみ
坂井 明美



五月二十三日の早朝より越前町営ゲートボール場にて、第二十八回光道園光が丘ハウス主催のゲートボール大会が開催されました。天候に恵まれて、五月にしては日差しが強いようにも思いましたが、とても良いゲートボール日和となりました。



ゲート通るかな～

参加人数が五名に満たないチームは、臨時で職員がチームの一員として参戦させて頂きましたが、『皆さんが上手なので申し訳ない』と口々に語っていました。どの選手もボールを見つめる眼差しは、試合を進めることに強くなり熱気にあふれていました。

光道園の利用者の方々は『光が丘チーム』として参加しました。結果は二戦二

敗でしたが、親善試合では九対九の接戦で決着せず、ゲート通し（サッカーというPK）を行う事になりました。皆が見守る中、惜しくも負けてしまいましたが、悔しそうな表情はもっと強くなりたいたいという気持ちの表れなのかなと感じました。参加した五名の利用者の方々にゲートボールについて感想をお聞きしてみると、N氏『毎日二時間程涼しい時間に練習している。ゲートボールは光道園に入ってから始めて職員から習った。自分の進みない方向にボールが行くと楽しい。今回の大会は良いボール運びが出来て楽しめた』、K氏『大会は健康管理や喜び、集中力を養う為に出場している。皆さんにもやって欲しいと思う。足や腰が痛いとしても五分でも意味がある。運動の為に歩く人もいるが、ゲートボールでは頭を使ったり話しながら歩くので認知症予防

今年には十六チームの参戦があり、試合方式はまず予選四者四リーグで行い、上位二チームが決勝リーグに進み、残りの二チームは親善試合のトーナメントで戦いました。



休憩の1コマ

になると思う。昔は光が丘チームは二十名もいたが、今は五人集めるのにもやっとで少し寂しい。今大会は自分なりに精一杯出来た。M氏『うまくいく時もあればいけない時もあり、ゲートボールに必要なのは技術だけでなく運も大事。』、H氏『ゲートボールを始めて二年程経ち上達してきた。しかしまだまだ練習量が足りない。来年もぜひ大会に参加して成果を上げたい。』、U氏『三年前くらいにゲートボールを始めた。力加減が難しいが楽しい。今回は駄目だったが、九月と十月にも大会があるのでそれに向けて頑張りたい。』とそれぞれに思いを語ってくださいました。

激戦の中、今回の大会優勝チームは「タッチ」でした。男性六名からなるチームで皆さんこんがり日焼けした肌白いユニホームが良く似合い、はつらつとした立ち姿に王者の賞録を感じました。また、大会中に光道園の「ライトワークセンター」や「光が丘ワークセンター」からの陶芸品やパン・クッキーの出店もあり、陶芸品は利用者さん自ら接客を行い、原材料からこだわったパンやケーキなど、どちらも好評で予想を超える売れ行きでした。お買い求め頂いた皆様有り難うございました。

今年には十六チームの参加で、去年より三チーム少なかったです。光が丘ハウス主催の大会では年々参加チームが減っており『参加者の高齢化や体調面の事などもあると思うが素晴らしいスポーツであるのに規模が縮小してきて少し寂しい』と吉田所長も開会式の挨拶で話されました。ゲートボール愛好家の減少なのかもしれません。しかし、来年から国体競技となるようなので、これを機に光が丘ゲートボール大会が更に活気ある大会となりま



優勝チーム『タッチ』と吉田所長



焼鳥おいしいな〜

花より団子♪*.



ライトワークセンター（セルプー課）

鰐 淵 百合佳

平成24年5月9日（水）と10日（木）、利用者・職員・ボランティアの方含む計93名で西山公園へ花見に行ってきました。私は花見の係になって3年目になるのですが、ここ2年は天候が悪かったり寒かったり花見外出ができませんでした。天候や気温は当日まで分からず、せっかく計画を立てているのに雨が降ったらどうしよう…なんて不安はつきものです。

9日（水）は少人数での外出で、昼食を摂り、午後からの外出となりました。天候も良く暖かく、まさに花見日となりました。当日、参加された利用者の方も、ご自分の好きな物を食べ、のんびりと過ごされていました。

10日（木）、この日は朝から空に雲がかかり肌寒く、こんな天気で花見に行っても大丈夫だろうか？など不安は募る一方でした。ボランティアの方も何名か参加されるとのことと当日は予定を変更するのであれば、10時に連絡をすることになっていました。西山公園でお弁当を食べる予定となっていたため、朝礼が終わると慌ただしく運搬する荷物の準備が始まりました。ちょうど車に机などを運び入れている時、空から雨がポツリポツリ…。「えーっ!!」とみんなで声をあげ今年もまた買物外出に変更になってしまうのかと考えてしまいました。ボランティアの方に連絡する時間も迫り、係は焦る一方です。課長に予定を変更するかどうかの相談をすると、課長自身も困った顔をしてしまい、インターネットで雲の動きを何度も確認していました。雲の動きを確認した課長は「このまま雲が流れれば行けると思うけどな！」その一言で予定は変更せず西山公園へ行こう！ということに。利用者の方もいつもより作業を早めに終え、それと共に職員もパタパタと準備を始めました。12時頃にバスが到着し、いざ西山公園へ！荷物の運搬で一足先に到着していた職員がバスを出迎えます。記念撮影を行い、待ちに待ったお弁当の時間です。毎年花見のお弁当は安価なものだったのですが今年は花見らしくしようとのことで、お弁当も少し豪華にして芝生の上にカーペットを敷いて机を並べ座って食べる形を取りました。

お弁当を食べた後は自由散策の時間となります。動物園まで行く利用者の方もいれば、のんびりとビールを飲んで焼きイカ・焼き鳥・大福などを食べて過ごされる方もいて、それぞれ過ごし方は自由です。お弁当の内容も量的にも良かったと思いましたが、それでも利用者の皆さんは、よく飲んでよく食べられました。普段食べることが出来ない物を食べたい！と思う気持ちが強いのかもかもしれません。

花見と言えば桜を思い浮かべますが、5月となった今ではつつじが満開に咲いていて、とっても綺麗な風景を見ることが出来ました。また、「あれが食べたい！これが食べたい！」と皆さん思う存分にご自分の好きな物を食べることができたのではないのでしょうか。『花より団子』、まさにこの言葉にふさわしいのではないのでしょうか。でも、めったに食べるのでできない食物を、たくさん食べてもていいですね！

当日までは本当に天候のことを心配しており、計画したことがスムーズに運ぶかどうか不安はとても多かったです。行事の一つ一つを利用者の方は楽しみにされており、花見なのに雨で買物なんて嫌じゃないですか？曇りで肌寒かったですが2年ぶりの花見外出が出来て良かったのではないかと思います。皆で花見に行けて本当に良かったですね。

当日ご参加いただいたボランティア・応援職員の方、ご協力ありがとうございました。



西山公園の噴水前で記念撮影

京都一泊旅行は、楽しかった

ライトホープセンター（援護二課） 白崎 弘子

援護二課には、利用者の方々がとても楽しみにされている行事がいくつもあります。その中のメインに旅行があります。今年度も利用者の方々の希望を聞き九つのコースが計画されておりその先陣を切つて五月九〜十日に京都一泊二日の旅行が実施されました。今回は利用者七名・ボランティア三名・職員四名の方が参加されその時の楽しかった体験などをお伝えしたいと思います。

九日の天気は、どんよりと雲に覆われており晴れ間は期待できない状況でしたが、京都に入ると嘘のように天候にも恵まれまふしい日が差し込んでくるようになり、一つ目の体験は、生八つ橋作りにチャレンジです。エプロン、手袋を身に着け職人気分になり八つ橋の生地をこねたり丸めたり伸ばしたりしてつがあん、いちご、シヨコラの三種類の餡を詰め自分の生八つ橋を作ってみました。最近では、イチゴ味の餡やチョコの餡があることを話し少し口の中に入れ味見を一緒にすると「おいしいね」と言い、顔を見合わせました。無事生八つ橋作りも終了し次は、今回の京都旅行で一番楽しみにしていた初の体験となる人力車に乗っての京都散策です。京都は、日本の歴史が、ギュッとつまっ

ている観光地！時代の流れを経てもなお受け継がれる伝統の体験でした。所要時間は、三十分間で利用者の方と付添いの職員、ボランティアさんのペアで人力車に乗り京都の八坂神社周辺の観光地を回りました。人力車は、俵夫（しゃぶ）と呼ばれるドライバーさんの、楽しいトークで道中を楽しませてくれました。二人も乗せているのに足は軽やかで全然ゆれたりせず、乗っていても安定感がありました。利用者の皆さんも楽しみにしていただけあってドライバーさんとの会話も弾み終始お話ししていた方もおられました。季節にも恵まれ日差しが少し暑いとおもわせるのを初夏の風が吹き心地よい気分になさせてくれ、三十分の人力車乗車体験の旅はあっという間でした。身体でいろいろと感ずることができ、有意義な時間を利用者の方と共有しあいながら過ごすことが出来ました。

散策し終えてバスに乗り込むと雨が降り出し旅館に向かう道中大雨に見まわれましたが、翌日の朝には雨も止み 天候にも恵まれ嵐山周辺で友達



生八つ橋作りにチャレンジ！



人力車で京都の名所を散策

皆さんも疲れも見せず朝起きをして作業に出ています。そして、声をかけると「楽しかったね。」来年も、また行きたいね。」と元気な声がかえってきました。旅行というところだけ楽しめではなく、準備の段階でワクワクしながら誰に土産を買ってこようか担当職員と話しをするのも楽しく、もちろん旅行中いろいろな体験やボランティアさんとの会話があったりおいしいものを食べてきたりする楽しさもあります。旅行から帰園してからもほかの利用者の方や職員にお土産を渡したり土産話して華が咲いたりして本当に楽しい思い出を作ることが出来ます。旅行中、普段とはちょっと違う利用者の方々の笑顔を見たようで私たち職員も元気をもらいました。また、発見や気づかせてもらう場面にも遭遇でき利用者さんの優しい一面などを知りうれしく感じたりもしました。次は、私の番かなあ僕の番かなあと胸を膨らませながら一日一日元気に過ごされています。

へのお土産等を購入している利用者の方の姿も見られ満足度は最高！京都を存分に満喫することが出来た旅行となったのではないのでしょうか。旅行から戻ってきた利用者

光道園ロード

～ I'll come back ～



(企画調整室)

青山直人

昨年、『I'll come back』この言葉で締めさせていただきました。あれから1年……。約束どおり今年も『鯖江陸上競技場』に戻ってきました。

今年つつじマラソンは昨今のランニングブームにより過去最多の3543人が参加となりました。光道園の利用者の皆さんは、ランニングブーム前からの参加であり、初心者ランナーとは違い、つつじマラソンの『酸いも甘いも噛み分ける』存在として、この日を迎えました。一人ひとり、様々な目標を持ちながら、『雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ夏のアツサニモマケヌ……』の精神で、日々練習に励んできました。

当日は快晴に恵まれ、気温15℃、心地よい天気の中、大会は開催されました。



皆さんは、ファミリーの部(2キロ)にエントリーしました。練習の成果を発揮し、競技場を後にしました。

私は、2キロに参加した利用者さんと伴走する職員の姿を見て、ある映像を思い出していました。

映像とは、光道園の記録映画『ひとつの道』です。そこには、昭和50年代の様子が描かれており、映像には、伴走の職員と当時の石田の光道園周辺を、元気に走り、1位でゴールする様子が記録されていました。

あれから約30年……。今、目の前を元気に走っていった彼こそが、映像で1位のゴールテープをきった本人でした。

利用者の皆さんは、これまでたくさんの職員と伴走し、たくさんの練習と大会に参加してきました。園内マラソン大会・チャリティマラソン大会・つつじマラソン大会、伴走する職員は代われども、走る本人はずっとそのままです。皆さんのたくさんの経験を、次の伴走者へとつなぐ、そんな2キロに感じました。当の本人達には、そんな気持ちも余裕もないかもしれませんが、二人をつなぐ、『タオル』と『手』からは、これまで伴走したたくさんの思い出とメッセージが送られ、伴走した職員は、利用者の皆さんとまた、新しい歴史を刻んでいると感じました。2キロの道のりは、参加した職員にとって貴重な『光道園ロード』となったはずです。

競技場に戻ってくるランナーは、どれも鮮やかなランニングウェアに身をまとう人たちで、いっぱいでしたが、『見た目より中身よ。』といわんばかりに、誰よりも目立ち、大きな声援を受けていたのは、参加した利用者の皆さんでした。(結果は全員完走でした。)

“I'll come back”(また戻ってくる)と背中で語りながら、疲れを感じさせず軽快にバスに乗り込む、その理由は『充実感』と言いたいところですが、充実感以上に、帰りに立ち寄る恒例の『喫茶店パワー』の方が大きい気がしました。また来年も『喫茶店』……。間違えました……。『競技場』でお会いしましょう。



「化石の他に何を見てきたの?」「ほ～ね～」

～たねのいえ in 恐竜博物館～

ライフトレーニングセンター（療護一課 たねのいえ）

森下 幹也

5月10日に春の遠足として勝山市にある「勝山恐竜博物館」に行きました。

当日、朝の時点では少し雨がちらついており、天気が悪化するのではないかと心配されましたが、出発するころには雨も止み、無事、勝山へ行くことが出来ました。

恐竜博物館へ向かう道中のバスの中は大賑わい!! ご家族同士で話が盛り上がっていたり、職員を交えて色んな会話が飛び交っていました。光道園を10時30分に出発しましたが、光道園から博物館までは結構な距離があるので到着する頃には、すでに12時・・・到着して、さっそく外にある休憩所でお弁当を食べました。結局、到着するまでバスの中が静かになる事はありませんでした。(笑)

毎年、行事に参加して下さるご家族が多く、慣れている為か、職員が昼食の準備をしているとご家族も積極的にテキパキと手伝って下さり、とても助かりました。

勝山も、雨は降っていませんでしたが、場所が山の上という事もあり、少し肌寒く、「寒いね～寒いね～」と言いながら、みんなで毛布を羽織ったり、身を寄せ合いながら、仲良くお弁当を食べました。テーブルごとに楽しい会話が飛び交い、いつもとは違った、とても楽しい昼食でした。

昼食が終わると、いよいよ今回の遠足の目玉、恐竜博物館の中へ!!

博物館内には、たくさんの恐竜の化石や等身大の模型等が展示されていて、利用者さんもキョロキョロと見まわしていました。動く恐竜が展示してある所では、嬉しそうに恐竜に触ろうとする方がいたり、反対に、怖がって目を閉じたり黙ってしまう方もいました。

恐竜の他にもマンモスや人間の化石などがあり、ご家族も展示物に書いてある説明や歴史などを真剣に読んで、「そうなんだぁ～」と感心していました。

博物館を見まわっている時に、ある利用者のご家族の方が、「前から、恐竜博物館に来たいと思っていたんだけど、中々来れないから、今回遠足で来てよかったわ」と言って下さり、とても嬉しかったです。

博物館を見終わった後には、売店に寄り道して、お土産を買いました。恐竜にちなんだお土産がたくさんあって、皆さんどれを買うか悩んでいました。(笑)

帰りのバスの中では、行きの時同様、話が盛り上がっている方たちや、疲れて寝ている方もいましたが、笑いあり、恐怖あり、寒さありの楽しい春の遠足でした。

遠足が終わった次の日、遠足に参加して下さった利用者さんの家に送迎に行った際に、ご家族の方が「昨日は楽しかったです。ああやって遠くに出掛けたいけど、この子を連れて一緒に行こうと思うと、大変で中々自分たち

だけでは行けないからねえ～。こうやって皆でお出かけ出来るのがすごく楽しいんです。」と言って下さりました。

たねのいえでは、毎年、色んな行事を計画しています。その行事にはご家族の方も積極的に一緒に参加して下さいます。普段、私たちは、利用者さんの支援（入浴、リハビリ、レク活動など）をしていますが、色んな行事を計画し、ご家族の方と一緒に行動することはたねのいえでの利用者様の様子をご家族に見て頂けると共に、家での様子を伺うことができ、とてもいい機会だと思いました。

これからも、利用者さん、ご家族さんに「楽しかった」「また参加したい」と言っていただけるような、楽しい、笑顔の溢れる行事をたくさん計画していきたいと思っております。



お弁当おいしいな～



恐竜の口は大きいなあ～

のぞみ工房 陶華星



お待ちしております。
『正吉さんのコーヒーカップ』
の完成です!!

真心のこもったコーヒーカップでホッと一息。疲れが溜まるこの季節に、陶華星より小さな癒しをお送りいたします。

その他にも元気が出る商品を多数とり揃えて、皆様のご来店をお待ちしております。ご来店の際は是非、手にとって御覧になってください。



〒916-8585 鯖江市和田町 9-1-1 光道園ライトワークセンター内「陶華星」

TEL : 0778-62-8103 FAX : 0778-62-3775

メープル食パン



おやつに、朝食に、メープルの甘い香り漂うメープル食パンをどうぞ!

750 円

各種クッキーの つめあわせセット



1,000 円 ~ 3,000 円

手作り工房 フ・クレールではおいしい たのしい うれしいをモットーにクッキー、パンをご用意させていただきます。ご注文をお待ちしています。

手作り工房 フ・クレール パン工房

社会福祉法人 光道園 光が丘ワークセンター

住所 : 〒916-0146 福井県丹生郡越前町朝日 22 E-mail : selp-2@kodoen.or.jp

TEL : (0778) 34 - 2121 : fuclair@kodoen.or.jp

FAX : (0778) 34 - 8005

URL <http://www.kodoen.or.jp>

お中元のご注文も承っております。

情報開示 社会福祉法人 光道園

貸借対照表 平成 24 年 3 月 31 日現在

(単位：千円)

勘定科目	当年度末	前年度末	増 減	勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
資産の部				負債の部			
流動資産	1,369,392	1,293,162	76,230	流動負債	197,547	172,670	24,877
現金預金	969,598	893,429	76,169	未払金	158,382	142,958	15,424
未収金	397,285	397,439	△ 154	預り金	34,940	23,461	11,479
仮払金	0	44	△ 44	仮受金	572	535	37
売掛金	1,273	1,086	187	買掛金	3,653	5,717	△ 2,064
商品・製品	377	446	△ 69	固定負債	260,572	281,800	△ 21,228
仕掛品	9	11	△ 2				
原材料	850	707	143	設備資金借入金	167,500	190,000	△ 22,500
固定資産（基本財産）	3,701,778	3,853,229	△ 151,451	退職給与引当金	93,072	91,800	1,272
建物（基本）	3,499,854	3,651,305	△ 151,451	負債合計	458,119	454,470	3,649
土地（基本）	201,924	201,924	0	純資産の部			
その他の固定資産	790,654	587,291	203,363	基本金	969,413	969,413	0
土地	49,491	18,160	31,331	基本金	969,413	969,413	0
建物	1	1	0	国庫補助金等特別積立金	1,697,808	1,781,294	△ 83,486
構築物	71,846	78,951	△ 7,105	国庫補助金等特別積立金	1,697,808	1,781,294	△ 83,486
機械及び装置	3,410	4,551	△ 1,141	その他の積立金	420,800	250,800	170,000
車両運搬具	9,556	7,695	1,861	施設整備積立金	30,000	0	30,000
器具及び備品	73,400	79,193	△ 5,793	建設積立金	387,000	247,000	140,000
建設仮勘定	7,508	4,515	2,993	役員退職謝金準備積立金	3,800	3,800	0
ソフトウェア	11,447	1,505	9,942	～次期繰越活動収支差額～	2,315,683	2,277,704	37,979
投資有価証券	50,090	50,120	△ 30	～うち当期活動収支差額～	207,979	136,545	71,434
措置施設繰越特定預金	30,000	0	30,000				
本部積立預金	390,800	250,800	140,000				
その他の固定資産	93,105	91,800	1,305	純資産合計	5,403,704	5,279,211	124,493
資産合計	5,861,822	5,733,680	128,142	負債・純資産合計	5,861,822	5,733,680	128,142

〔脚注〕減価償却費の累計額

2,013,920 千円

役員名簿

平成 24 年 4 月 1 日現在

理事長	関 捨男	常務理事	荒木 博文	理事	松山 幸雄
理事	角 佳津見	理事	山内 進	理事	木村 良平
理事	齋藤 邦雄	理事	土肥 芳一	理事	藤本 武司
理事	渡辺 恭行	監事	孝久 忠央	監事	春木 誠一

評議員名簿

平成 24 年 4 月 1 日現在

評議員	関 捨男	評議員	荒木 博文	評議員	松山 幸雄
評議員	角 佳津見	評議員	山内 進	評議員	木村 良平
評議員	齋藤 邦雄	評議員	土肥 芳一	評議員	藤本 武司
評議員	渡辺 恭行	評議員	松木 健一	評議員	矢納 正人
評議員	熊谷 忠男	評議員	渡辺 恵	評議員	小野 和男
評議員	田中 伸幸	評議員	岩尾多希子	評議員	高橋 正一
評議員	江守 勝	評議員	吉田 龍雄	評議員	高田 涼子



財産目録

平成 24 年 3 月 31 日現在

(単位：千円)

資産・負債の内容	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	969,598
売掛金	1,273
商品・製品	377
仕掛品	9
原材料	850
未収金	397,285
流動資産 合計	1,369,392
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
建物	3,499,854
土地	201,924
基本財産 合計	3,701,778
(2) その他の固定資産	
土地	49,491
建物	1
構築物	71,846
機械及び装置	3,410
車両運搬具	9,556
器具及び備品	73,400
建設仮勘定	7,508
ソフトウェア	11,447
投資有価証券	50,090
措置施設繰越特定預金	30,000
本部積立預金	390,800
その他の固定資産	93,105
その他の固定資産 合計	790,654
固定資産 合計	4,492,430
資産合計	5,861,823
II 負債の部	
1. 流動負債	
買掛金	3,653
未払金	158,382
預り金	34,940
仮受金	572
流動負債 合計	197,547
2. 固定負債	
設備資金借入金	167,500
退職給与引当金	93,072
固定負債 合計	260,572
負債合計	458,119
差引純資産	5,403,703

資金収支計算書

平成 24 年 3 月 31 日現在

(単位：千円)

科目名	本年度予算額	本年度決算額	差異
(就労支援事業活動による収支)			
就労支援事業収入	28,040	27,689	351
就労支援事業活動収入計	28,040	27,689	351
就労支援事業支出	26,620	26,520	100
就労支援事業活動支出計	26,620	26,520	100
就労支援事業活動資金収支差額	1,420	1,169	251
(福祉事業活動による収支)			
介護保険収入	526,790	528,692	△ 1,902
利用料収入	560	550	10
措置費収入	269,050	269,377	△ 327
受託金収入	17,100	17,256	△ 156
自立支援費等収入	1,577,290	1,583,397	△ 6,107
経常経費補助金収入	50,080	50,487	△ 407
寄附金収入	42,430	43,326	△ 896
雑収入	39,300	46,479	△ 7,179
受取利息配当金収入	950	939	11
会計単位間繰入金収入	46,010	46,000	10
経理区分間繰入金収入	140,010	133,464	6,546
福祉事業活動収入計	2,709,570	2,719,967	△ 10,397
人件費支出	1,580,310	1,576,736	3,574
事務費支出	271,780	266,222	5,558
事業費支出	387,920	386,532	1,388
経理区分間繰入金支出	140,010	133,464	6,546
会計単位間繰入金支出	46,010	46,000	10
利用者負担軽減額	360	301	59
福祉事業活動支出計	2,426,390	2,409,255	17,135
福祉事業活動資金収支差額	283,180	310,712	△ 27,532
(施設整備等による収支)			
施設整備等補助金収入	7,400	7,353	47
施設整備等寄附金収入	10	0	10
施設整備等収入計	7,410	7,353	57
固定資産取得支出	74,660	74,176	484
施設整備等支出計	74,660	74,176	484
施設整備等資金収支差額	△ 67,250	△ 66,823	△ 427
(財務活動による収支)			
投資有価証券売却収入	0	30	△ 30
積立預金取崩収入	10	0	10
その他の収入	7,160	10,109	△ 2,949
財務収入計	7,170	10,139	△ 2,969
投資有価証券取得支出	10	0	10
積立預金積立支出	160,040	170,000	△ 9,960
その他の支出	11,610	11,414	196
財務支出計	191,160	203,914	△ 9,754
財務活動資金収支差額	△ 186,990	△ 193,775	6,785
予備費	40,070	0	40,070
当期資金収支差額合計	△ 9,710	51,282	△ 60,992

事業活動収支計算書

(自) 平成 23 年 4 月 1 日 (至) 平成 24 年 3 月 31 日

(単位：千円)

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
(就労支援事業活動収支の部)			
就労支援事業収入	27,689	28,995	△ 1,306
就労支援事業活動収入計	27,689	28,995	△ 1,306
就労支援事業支出	27,326	26,783	543
就労支援事業活動支出計	27,326	26,783	543
就労支援事業活動収支差額	363	2,212	△ 1,849
(福祉事業活動収支の部)			
介護保険収入	528,692	514,487	14,205
利用料収入	550	415	135
措置費収入	269,377	260,694	8,683
受託金収入	17,256	10,818	6,438
自立支援費等収入	1,583,397	1,541,633	41,764
経常経費補助金収入	50,487	51,311	△ 824
寄附金収入	43,326	17,680	25,646
雑収入	46,479	36,975	9,504
引当金戻入	10,142	7,008	3,134
国庫補助金等特別積立金取崩額	90,444	90,306	138
福祉事業活動収入計	2,640,150	2,531,327	108,823
人件費支出	1,576,736	1,549,879	26,857
事務費支出	266,222	258,687	7,535
事業費支出	386,532	392,805	△ 6,273
減価償却費	192,268	191,653	615
引当金繰入	11,414	11,354	60
利用者負担軽減額	301	0	301
福祉事業活動支出計	2,433,473	2,404,378	29,095
福祉事業活動収支差額	206,677	126,949	79,728
(事業活動外収支の部)			
受取利息配当金収入	939	1,185	△ 246
会計単位間繰入金収入	46,000	38,000	8,000
経理区分間繰入金収入	133,464	126,054	7,410
事業活動外収入計	180,403	165,239	15,164
会計単位間繰入金支出	46,000	38,000	8,000
経理区分間繰入金支出	133,464	126,054	7,410
事業活動外支出計	179,464	164,054	15,410
事業活動外収支差額	939	1,185	△ 246
経常収支差額	207,979	130,346	77,633
(特別収支の部)			
施設整備等補助金収入	7,353	2,740	4,613
施設整備等寄附金収入	0	6,200	△ 6,200
特別収入計	7,353	8,940	△ 1,587
固定資産売却原価・処分損	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額	7,353	2,740	4,613
特別支出計	7,353	2,740	4,613
特別収支差額	0	6,200	△ 6,200
当期活動収支差額	207,979	136,546	71,433
(繰越活動収支差額の部)			
前期繰越活動収支差額	2,277,704	2,260,678	17,026
当期末繰越活動収支差額	2,485,683	2,397,223	88,460
その他の積立金積立額	170,000	119,519	50,481
次期繰越活動収支差額	2,315,683	2,277,704	37,979

苦情受付、ヒヤリハット・事故報告状況

苦情解決申出人別分類表 (過去 3 年間)

	21 年度	22 年度	23 年度
利用者	20	17	21
家族	24	8	17
職員	1	1	6
ボランティア	2	0	0
業者	1	1	1
関係者	1	0	0
地域の方	0	1	0
計	49 件	28 件	45 件

平成 23 年度ヒヤリハット・事故 施設 (課・室) 別集計表 (種別上位)

	転倒	投薬ミス	滑落	転落	他傷
ラ イ フ	14	19	3	1	11
ホ ー プ	14	4	4	4	1
ワ ー ク	9	2	1	0	1
光 ワ ー ク	2	1	0	0	0
第一・二光ハウス	4	8	1	1	1
第三光ハウス	19	7	9	8	2
地域生活支援課	7	0	1	0	4
生活機能支援室	1	0	0	0	0
計	70 件	41 件	19 件	14 件	20 件

当園における苦情受付状況は平成 12 年 6 月 1 日の社会福祉法の一部改正に伴う第 82 条の規程により、平成 12 年 9 月 18 日に苦情受付窓口を設け、各施設に責任者・受付担当者に加え第三者を委嘱し体制を整え、平成 17 年 4 月 1 日には園内の苦情解決取扱規程、苦情及び事故対応における手順書とフローチャートを設け利用者に周知し、体制の強化を図ってまいりました。

平成 23 年度は法人全体で 45 件(昨年比 17 件増)の報告がありました。年度末には苦情解決第三者委員会を開催し、助言や苦情解決への改善、評価、解決方法などを検討し、同様の再発防止とおよび啓発につとめています。

一方、ヒヤリハット・事故報告は、平成 16 年より施設事故予防対策委員会を設け、利用者の安全な生活環境を目指して、重大事故予防の為の事例の検討と対策、職員の事故予防に対する意識高揚に努めています。平成 23 年度は、268 件(昨年度比 52 件減)の報告がありました。

いずれも当園ホームページに情報公開をしております。URL <http://kodoen.or.jp>

平成二十四年三月～四月採用職員

新任職員の紹介

- ★氏名 ①血液型 ②趣味
 ③趣味 ④好きな言葉

鯖江事業所

総務一課

★杉田 啓和

- ①A型 ②ふたご座 ③映画鑑賞
 ④「石橋を叩いて渡る」

セルプ一課

★出垣内 祥平

- ①O型 ②おひつじ座
 ③体を動かすこと
 ④「今を大切にする」

療護一課

★吉村 美波

- ①B型 ②しし座
 ③夜景を見に行くこと
 ④「山あり谷あり」

★五十嵐 研一郎

- ①A型 ②ふたご座
 ③カラオケ、スキー、水泳
 ④「明鏡止水」

★林 茜

- ①AB型 ②うお座
 ③かわいいキャラクターを見つけたこと
 ④「いつも笑顔。」

★坂井 麻希

- ①B型 ②ふたご座
 ③我が子と遊ぶ
 ④「思いやり♡」

療護一課

★岸本 大地

- ①A型 ②さそり座 ③旅行
 ④「いつも、ダメ元で」

★遍照 梓

- ①A型 ②さそり座
 ③音楽を聴く ④「一期一会」

朝日事業所

セルプ一課

★菅沼 稚穂

- ①B型 ②おひつじ座
 ③ドライブ・友だちと遊ぶ
 ④「笑顔」

療護一課

★月田 汐美

- ①O型 ②おひつじ座
 ③旅行、ドライブ、ライブ
 ④「人生楽しく!!!」

★内ノ宮 美里

- ①B型 ②てんびん座
 ③音楽鑑賞 ④「Smile」

療護一課

★下鉢 恭子

- ①B型 ②しし座 ③アウトドア
 ④「つまづいたっていいじゃないか こんげんだもの」

★田中 慶朋

- ①AB型 ②みずがめ座
 ③お笑い、バスケットボール
 ④「正直が一番」(専門学校3年の担任の先生にいただいた言葉です。)

★平井 桜子

- ①A型 ②おひつじ座
 ③スノーボード(旅行)
 ④「ツイテル・ツイテル」(悪いことがあっても、ついているという気持ちをもつ)

★坪川 聖奈

- ①O型 ②いて座
 ③料理・お菓子作り
 ④「ありがとう」

高齢福祉一課

★寺岡 智子

- ①O型 ②うお座
 ③ショッピング
 ④「ありがとう」

地域生活支援課

★西 淳子

- ①O型 ②みずがめ座
 ③買い物 ④「感謝」

★西宮 千晴

- ①O型 ②みずがめ座
 ③和太鼓
 ④「人は誰でも羽ばたく時が来る。」



新人研修・吉田所長の講義



辞令交付式

ふれあい交流♪ in 光道園



5月18日 ミックバラーズと高校生



5月15日 江川裕美子氏と池野成秋氏による JAZZ コンサート



4月15日 合唱部の生徒から花束をいただきました。



6月1日 “2012 チャリティーきゃらばん” による人形劇



新人研修を終えての感想

初代中道園長が、この光道園を築きあげた思いに触れ、また、諸先輩方の思いに触れることができ、五十五年の重みというものを感ずることができ大変感動・感激・感謝しています。先人の方々の苦勞と思いを無駄にすることなく、これからも、光道園精神を心にとめながら、利用者の方々と共に成長できるように日々頑張っていきたいと思えます。

(女性)

一番印象に残ったのは、2日目の介護技術基礎演習である。今まで介護の実習というもののをあまり経験したことがなかった私にとって、歯科衛生士・言語聴覚士・理学療法士から直接に介護のノウハウを学ぶことは非常に新鮮であったからである。そして利用者の生活の質を高めるためには、職員全員で正しい介護を実践する必要があり、自分自身も早く正しい介護を覚えて実践できるようにしたいと感じた。(男性)

『障がいとは一人である内には発生しない。なぜなら、その人の中では自然なことである。何の障がいも無いからである。しかし、誰かがコミュニケーションをとろうとしたときに、初めて二人の間に障がいが生じる。』という話があります。障がいとは個人に宿るものではなく、他人との関係の中で生まれる概念であるという考えですが、光道園の職員となることで、自分達がコミュニケーションを取ろうとする側になります。利用者の方とどう接するのか、その心構えを教えて頂いた気がします。(男性)

利用者主体のサービスは、あるがまま全てを聞く(丸のみ)ではいけない、ただのボランティアになってはいけません。私たちの暮らしと違うのは何なのか？普通の暮らしとは何なのか？を考えなければならぬ。今一度、利用者主体の支援というものをよく考えていきたいと思います。(女性)



笑顔が いっぱい!



社会福祉法人 光道園の施設			
社会福祉法人 光道園 法人本部	鯖江市和田町 9-1-1	養護老人ホーム・第一光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトワークセンター	鯖江市和田町 9-1-1	養護(盲)老人ホーム・第二光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・光が丘ワークセンター	丹生郡越前町朝日 22-2-2	特別養護老人ホーム・第三光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトホープセンター	丹生郡越前町朝日 22-3-1	通所介護事業所・デイサービスセンターさざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライフレニングセンター	鯖江市和田町 9-1-1	訪問介護事業所・ヘルプステーションさざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
日中生活介護事業・たねのいえ	鯖江市和田町 9-1-1	居宅介護支援事業所・さざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
		越前町障害者支援センター・さざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
		障害者支援センター・こうどうえん	鯖江市和田町 9-1-1